

## 平成 23 年 3 月期決算説明会質疑応答要旨

日時：平成 23 年 5 月 2 日（月） 15：30～16：00

場所：ベルサール八重洲

お断り：この要旨は、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、説明会で話したことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

- Q. 今期の海外電子の計画で、アジアの半導体と液晶の比率はどのくらいか。
- A. 前期は液晶の比率の方が高かったが、今期は半導体の伸びの方が高いと見ている。
- Q. 超純水供給事業のコストが今期も増えるリスクはあるか。
- A. 前期コストが増えたのはコスト発生時期の問題であり、むしろ前々期のコストが少なく前期に通常の水準に戻ったため、今期コスト増は見込んでいない。超純水供給事業には基本契約があり、利益率に大きな変化ないが、内部努力でコストを下げている。
- Q. 電力向けの事業について、震災復旧はどのようなものが考えられるか。メンテナンスかハードか。
- A. 東京電力、東北電力管内で火力発電所が甚大な被害を受け、立ち上げ支援の期待に応えていく必要がある。現在、資材入手、作業手順について最終確認をしている。
- Q. 電力向け以外で電子部品など他の分野における震災復旧についてはどうか。
- A. 震災以来、工場の立ち上げ支援などさまざまな要請がきている。立ち上げ支援要請のうち、すでにほとんどが完了済み。薬品の三大用水市場（石化、紙パ、鉄鋼）のお客様は海岸に立地している関係上、津波の被害を受けており、工場復旧に対応している。また半導体、液晶についてはかなりの工場でクリーンルームが被害を受け、自動車や素材産業でも復旧に対応している。
- Q. 今期が中期経営計画の最終年度にあたるが、中期経営計画の数値と今期の計画にかい離がある理由は。外部環境の変化か、社長としてやり残したところがあるか。
- A. 社長に就任したときから、新たな成長に向けて施策を打ってきた。しかし、世の中の景気が良くなかったことに加え、震災も起きてしまった。今回の社長交代は現中期経営計画の理念をスピードを上げて実践するために、若い世代の経営者にやってもらうという考えで行うものである。海外とくにアジアをどのように拡大させていくかについて、体制、しくみ、戦略を検討してきた。土台はできたので、実行するのはこれからである。
- Q. 超純水供給事業の中小型液晶向け案件はどのような状況か。
- A. 現在設備建設中の案件は、NAND 型フラッシュメモリの案件とスマートフォン向け液晶案件の二つがある。顧客側で従来のように大きな設備をつくっていくというより、商品の売上を見ながら段階的に投資していく発想になってきている。またすでに超純水供給を実施している先でも、素材や材質の変化に伴い、排水が変わってくるなど、中身が変わりつつある。このため、超純水供給事業は大きくは増えていかないが、ある程度の設備投資は必要であり、そう簡単に大きく減少することはない。

- Q. 土壌浄化事業の足元はどのような状況か。震災の影響があるか。
- A. 受注、売上が継続して落ちており、震災の影響も受けている。当社では1年から2年かけて行う息の長い浄化が多いが、リスクが大きい今の状況では、浄化が中断されることも多かった。首都圏は持ち直しの傾向があるが、地方圏では抑制が厳しい。ただ、今後IFRSが徹底されてくるにつれて、負債をバランスシートに載せていく必要が高まる。負債として放置するより浄化する、という動きになることを期待している。
- Q. 薬品において、震災で工場が止まっている影響はどれだけ出るのか。
- A. 岩手、宮城、福島、茨城、千葉などにおける売上が震災直後には落ち、徐々に戻ってきている状態である。
- Q. 社長をバトンタッチするという決断に至った背景は。社長在任期間が短かったという印象があるが、アジアの排水リサイクルの拡大などどういふかたちで土台ができたと考えるのか。
- A. 当社にいま足りないものは成長力であると指摘を受けてきて、私もそう感じている。成長させるためにどの分野に資源を集中させるのかが課題であった。国内ではサービス事業を徹底してやっつけようということである程度の結果は残せた。海外ではこれまで従来と変わったことがあまりできてこなかったが、今後はよりローカル主体にしていきたいと考えている。ローカル企業に対しても、欧米企業に対しても拡大のチャンスは大きく、新たな技術もある。会社として国内主体の風土を何とか変えたいと思い、会社のなかから「グローバル」や「海外」という名称をなくし、全員参加でこれにあたることとした。2年での交代は早いと感じられるかもしれないが、今期はリベンジの年であり、かつ新たな3ヵ年計画を立案する年であることから、新たなリーダーの下で行うのがいいと判断した。私自身で決断した前向きな交代とご理解いただきたい。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。